

令和5年度 大阪府立枚方支援学校
第2回学校運営協議会

1. 日時 令和5年11月24日(金) 15:20~17:00

2. 場所 枚方支援学校 会議室

3. 構成メンバー

会長 荒木 寛巳(森ノ宮医療大学 医療技術学部 鍼灸学科 教授)
副会長 三谷 幸生(枚方市立ひらかたこども発達支援センター 所長)
委員 中口 武(桜丘校区コミュニティ協議会 会長)
委員 吉田 潤(社会福祉法人・医療法人 大潤会 理事長
大阪府立枚方支援学校学校医)
委員 中岡 将基(枚方市障害者就業・生活支援センター センター長)
委員 三重野 明(大阪府立枚方支援学校 PTA 会長)
校長 西村 誠三
准校長 村上 哲也
事務局
教頭 水川 久美子、佐藤 賢太
事務長 奥村 真千子
首席 植木 敏幸(統括)、神庭 真弓
藤原 健太(教務主任)、和田 恵子(中学部主事)
指導教諭 森脇 啓仁(高等部主事)
小学部主事 筒井 香菜子

4. 次第 (1) 校長、准校長挨拶
(2) 令和5年度 学校経営計画(小学部・中学部) 進捗状況
(3) 令和5年度 学校経営計画(高等部) 進捗状況
(4) 学校教育自己診断について
(5) 准校長挨拶

5. 協議内容

(1) 令和5年度 学校経営計画(小学部・中学部) 進捗状況
令和5年度 学校経営計画(高等部) 進捗状況

【働き方改革の推進について】

(委員から)

働き方改革の推進について、ストレスチェック健康リスクの数値は低いほうが良いのか？
職場のサポート健康リスクは抑えられており、仕事量は増加していることについての分析は？

(学校回答)

リスク数値なので低い方が良い。相対的な教員数は厳しい状況である。法定一学級の配置人数は学部により異なっている点も作用している。大きな課題の一つである。

(委員から)

教員の人手不足による、負担増ということは想像される。配慮した運営を心掛けてほしい。

(委員から)

代替の講師不足という状況があると聞くが、状況は変わらないか？

(学校回答)

変化はない。仕事分担に大きな影響がある。

(委員から)

働き方改革をすすめていくと、地域とのつながりが薄くなっていくということも懸念される。行政としても教員不足を具体的に補填していく方策が必要ではないか。

(委員から)

公務かボランティアかという抑えはしっかりと行う必要はある。一方で、地域とのつながりは大切な取り組みと考えている。

【多様な進路への対応について】

(委員から)

2重籍（地域の学校と支援学校の二つに在籍している）が導入されると、現場の負担が増えるのではないかと懸念する。中学校からの進路先について多様化しているが、支援の必要な生徒の受け入れについて不安がある。しっかりと支援学校の進路指導のノウハウを共有してほしいと感じる。

(委員から)

不本意な進路選択、実際に進学してみたのミスマッチを防ぐために進路学習の充実是他校でも課題になっている。どのような取り組みを行っているか？

(学校回答)

進路説明会や学校見学会の案内を行い、個別の進路先にむけて情報提供や進路学習（模擬面接、受験指導など）を実施している。

(学校回答)

中学部3年生段階での進路希望の変更について、安易に受け入れるのではなく、進路相談を丁寧に行うように学年学部に働きかけている。

(委員から)

さまざまな意味で、地域のセンター校的な役割が期待されている。

(委員から)

めざす学校像の実現のためにも、教員の働き方の改革は重要。PTA でも協力できる部分は積極的に行っていきたい。

(2) 学校教育自己診断について

(委員から)

児童生徒と保護者の回答項目から「わからない」を削除したのに、教職員の回答項目に「わからない」があるのは何かあるのか。

(学校回答)

教職員については、「わからない」の回答数の増減を指標としているので、今回は選択肢として残した。

(委員から)

児童生徒の「あまり」の回答は、難しくないか。

(学校回答)

保護者と一緒に考えていただくのと、第2次大阪府教育振興基本計画前期事業計画に基づく意識調査の回答項目に指定されているため変更ができない。

(学校回答)

グーグルフォームの利用で、提出数が減るかもしれない。送信がうまくいかないなどのトラブルがあるかもしれない。その一方、やりやすくなったという意見も聞く。

6. まとめ

(委員から)

次回に向けて、学校教育自己診断の結果が出てくるので、いろいろな意見を交換できたらと思う。

第3回学校運営協議会は、令和6年2月28日(水)を予定